

# オリジナル英語学習用ポッドキャストの授業での継続的活用

榎 田 一 路

広島大学外国語教育研究センター

## はじめに

広島大学外国語教育研究センターでは、2008年8月から英語学習用のオリジナルポッドキャスト “Hiroshima University’s English Podcast”<sup>1)</sup> (以下 HUEP) の開発および配信を行っている。同ポッドキャストは「ドラマで英語を学ぼう」「やさしい英語会話」「異文化ディスカッション」の3種類から構成され、それぞれ内容と対象レベルにバラエティを持たせている。1本の番組の長さは15～20分程度で、毎週更新を行っている。2011年1月1日現在、再放送を除く配信数は114にのぼり、過去の配信分を含む全番組の試聴とダウンロードは、Nucleus CMSを用いたオリジナルのウェブサイトと iTunes Store を通じて行えるようになっている。配信用サーバは、広島大学情報メディア教育研究センターのホスティングサーバを利用している。ウェブサイトおよび RSS フィードへの1日の平均アクセス数は、現在1,500前後であり、配信開始時から着実に増加しつつある。

これまで、開発に先立つ事前調査、配信システムの構築および教材開発の概要、および自学自習用教材としての試用を行うとともに、希望者を対象としたポッドキャストの活用による縦断的研究を行ってきた。これらの経緯や、ポッドキャストのシステムに関する詳しい説明などについては榎田 (2008, 2009, 2010) および Lauer (2008, 2009), Lauer and Enokida (2010) を参照されたい。

本報告は、HUEP のエピソードを大学の英語授業の副教材として一定期間継続的に活用した実践に関するものである。授業での活用報告は、大学休業期間中の自学自習用の教材として HUEP を限定的に活用した実践を取り扱った榎田 (2010) がある。今回は毎回の授業において、最新のエピソードを授業で取り扱うとともに、その聴取を宿題として課した。以下、この実践に至る背景と、実践の概要、および学生を対象としたアンケート結果を報告し、本実践の有効性を探る。

## 1 実践の背景

ポッドキャストを英語教育に活用することには、学習者・教授者双方にとってメリットがある。学習者のメリットとしては、無料である、世界中から配信されている無数の番組から自分のレベルと興味にあった番組が見つかる、iPod や Walkman 等のデジタルオーディオプレーヤ (DAP) や iPhone などのスマートフォンや携帯電話と併用することでいつでもどこでも学習できる、ダウンロードした番組はパソコン上のメディア再生ソフトを用いることで速度調整が可能である、といった点が挙げられる。また教授者側から見れば、教材配布にあたり CD-ROM 等のパッケージメディアが不要である、利用にあたり著作権処理が不要である、RSS フィードを学習の「ベース・メーカー」(池田(2008))として活用しうる点などが利点として挙げられる。費用をかけることなく、英語学習の絶対量を確保する手段として、その潜在的可能性は非常に高い。

このようにポッドキャストの教育活用が現実的になった背景には、大学生の間での DAP やス

スマートフォンなどの急速な普及が挙げられるが、一方で大学生の間でのポッドキャストの認知度は決して高いとはいえない。また、日本国内の大学から定期的に配信されているポッドキャストも少なく、その可能性の高さにもかかわらず、ポッドキャストは大学英語教育においてあまり活用されているとはいえない。このような背景から、オリジナルのポッドキャストの開発、配信および授業での活用を通じて広島大学の学生が英語学習を楽しみながら継続できる手段として、HUEP が開始された。

ただ、仮に配信を行っても、それだけでは大学生の自主的学習には結びつかない点が尾関(2009)によって指摘されている。たとえ大学生の間でインターネット接続環境やDAPなどのポッドキャストを再生する環境が整っても、それに比例してポッドキャストの利用度が向上するわけではないのは明らかだろう。その理由としては、先述したような認知度の低さに加え、大学生の娯楽用機器であるDAPやスマートフォンに学習材を介在させることの難しさ<sup>2)</sup>や、学生各自のパソコン・インターネット・DAPの利用習慣の多様性などが挙げられる。WBT(Web-Based Training)などのe-learning教材と同様に、ネット上に膨大な教材リソースを構築しても、教授者主導によるある程度の強制とペースメイキングを伴わなければ、ポッドキャストを利用した英語学習が成り立たないのが現実だろう。さらにDAPやスマートフォンなど、ポッドキャストをモバイル環境で利用しうる機器を有していない学生も多数存在するし、たとえそれらを所有していても、全員がiTunesなどのアグリゲータを利用したり、定期的にチェックしているわけではないから、ポッドキャストを授業で活用する当初は学習者個人の利用環境に依存しない、統一した環境を構築することも肝要だろう。

このような問題点を踏まえ、本実践ではHUEPを一定期間、毎回の授業時間内で取り扱い、同一の聴取環境の下での同一の番組聴取を強制的に課した場合、学習者がポッドキャストを利用した英語学習にどのような意識で臨むのかを探ることにした。また、榎田(2010)と同一のアンケート調査を行い、授業時間外の課題として自由な聴取を課した場合と、調査結果を比較してみることにした。

## 2 実践の概要

本実践は、2010年5月～6月に、広島大学で筆者が担当しているTOEIC対策の授業科目「チャレンジングTOEIC(R)」2クラスで行われた。対象学生は大学2年生を中心とする95名で、所属学部は工学部、理学部、生物生産学部である。この2クラスのTOEIC平均スコアは525.7(標準偏差88.1)である。

「チャレンジングTOEIC(R)」はTOEIC対策のクラスであり、授業は基本的にTOEIC対策教科書に基づいて行われている。また、教科書に登場する語彙から毎回100語ずつを選択し「オンライン単語学習」という形で授業時間外の予習を課し、毎回の授業開始時に単語テストを行っている。また4～5週間ごとに、計3回の復習小テストも行い、学習内容の定着を図っている。また、この教科書の後半ではTOEICテスト1回分の模擬試験問題が掲載されており、これも期日を定めて自学自習用課題として用いている。また、TOEICのスコアアップという授業目標を考慮し、授業期間中に全学で一斉実施されるTOEIC IPテストのスコアも、成績評価の対象としている(上記スコアは、この一斉実施時の結果である)。このように本授業科目では、TOEIC対策だけでも学生は大量の学習内容を消化することが求められている。

本実践ではHUEPのうち「やさしい英語会話」の最新のエピソードを用いた。「やさしい英語

会話」の構成は表1のようになっており、同じ会話が異なるスピードで2回流される構成となっている。「やさしい英語会話」は留学生を中心とする広島大学の大学生が会話を作成し、その会話に解説を加えたもので、今回の対象クラスである TOEIC 対策の授業内容に必ずしも合致するものではない。しかし対象学生は英語を専門としておらず、その多くは英語学習の絶対量が不足しているため、本ポッドキャストを通じて英語リスニング量を増やすことは TOEIC リスニング対策に有用である旨を学生に説明した。授業は CALL 教室で行われ、ポッドキャストへのアクセスは LMS (Moodle) を用いた (図 1)。このように視聴環境を統一することにより、自宅にインターネットの接続環境を持たない学生や、DAP や iTunes を利用していない学生も、学内の情報教室等で自学自習できる環境を整えた。同時に、本ポッドキャストは iTunes や iPod などでも利用可能である旨を簡単にではあるが説明した。

1	オープニング	会話のトピックへの導入
2	ダイアログ	スロースピード
3	解説	ダイアログ内の重要語句の解説、例文など。解説者の雑談も交えて進行。
4	ダイアログ	ナチュラルに近いスピード
5	エンディング	まとめ

表1 「やさしい英語会話」のフォーマット

The screenshot shows two units in a Moodle course:

- Unit 11:** 24 June - 30 June. Activities include: 第2回小テスト (Unit 4-7の単語と教科書の内容), 映画のディクテーション (Harry Potter). Description: 本日の課題: Hiroshima University's English Podcastの以下のエピソードを聞いておいてください。次回の授業で、番組内容に関する質問をします。 やさしい英語会話 (65) Tipping.
- Unit 12:** 1 July - 7 July. Activity: Unit 9: Entertainment (2). Sub-activities: Word Match/Grammar (Unit 9), Dictation (09). Description: 本日の課題: Hiroshima University's English Podcastの以下のエピソードを聞いておいてください。次回の授業で、番組内容に関する質問をします。 やさしい英語会話 (66) Going to a Concert. Hiroshima University's English Podcastの過去に配信したエピソードを3本選んで聞いてください。以下のリンクがリスニングログからレポートを提出してもらいます。(提出期限: 7/14) リスニングログ (2) Hiroshima University's English Podcast.

図1 Moodle上での指示

毎回の授業では、「やさしい英語会話」のスロースピードの会話部分を流した後で、ワークシートを用いたリスニング活動を行った。これらの活動には、ディクテーション、内容把握のための T/F Questions、記述問題、会話の要約などが含まれる (資料1)。また音読・シャドウイングの練習も随時行った。これらの活動に費やした時間は、授業開始時の10～20分程度である。授業で扱ったエピソードについては、次回までに Moodle 上で番組の全パートを聞いておく宿題を課し、次回授業開始時に、TOEIC 対策の単語テストとあわせて、内容理解のテストを行った (資料2)。テストの内容は、番組内で解説されている重要表現に関するもの、会話の内容に関するもの、さらには解説の中での司会者間のやりとりに関するものなど、番組全体を聴いたかどうかを確認できるものとした。Moodle 上では番組を聴きながらスクリプトを確認することができ、番組の MP3 ファイルにもスクリプトが埋め込まれているので、iPod などを用いれば、モバイル環境でスクリプトを見ながらの学習が可能になっている。

今回の実践で使用したエピソードは表2のとおりである。季節に合った話題 (“Mother's Day” は母の日の直前に配信) から、アルバイトや携帯電話といった学生に身近なもの、刺身やチップのような日本や外国の独特の文化に関するもの、さらにはアイドルのコンサートに行く場面のような気軽に聞ける話題など、学生の興味に合うと思われる様々な話題が取り扱われている。

59. Mother's Day
60. Part-time Jobs and Big Dreams
61. College
62. Cell Phones
63. Wedding Receptions
64. Raw Fish
65. Tipping
66. Going to a Concert
68. A School Reunion*
69. Leaving Japan*

\*要約練習のみ (テストなし)

表2 授業で扱った「やさしい英語会話」のエピソード

こうした毎回の授業でのリスニング練習に加え、授業開講回数の不足を補うため、過去に配信した「やさしい英語会話」の中から6エピソードを選んで聞き、聞いた内容についての「リスニングログ」をMoodle上に提出する課題を課した。リスニングログの内容は、聞いたエピソードの題名、聞いた回数、5段階評価、印象に残った表現、自由記述によるコメントである。

さらに、学期末には学生のポッドキャスト再生環境と、本ポッドキャストの利用に関するアンケート調査を行った。これは先にも述べたように、榎田(2010)で用いたものと同じのものであり、アンケート項目は、DAP所有状況、HUEPの再生環境、HUEPによる学習の実態、ポッドキャストを使った英語学習が役立ったかどうか、今後もポッドキャストによる学習を継続したいかどうか、そして番組についての自由記述である。なお、榎田(2010)と同じ条件とするため、アンケートは記名式とした。

参考までに、今回の実践と榎田(2010)の実践との違いを表3にまとめておく。

	今回の実践	榎田(2010)
対象学部・人数	工学部・理学部・生物生産学部 2年生を中心とする95名	工学部1年生 50名
TOEIC 平均スコア(SD)	525.7 (88.1)	415.5 (61.5)
使用教室	CALL 教室	視聴覚教室
期 間	10週間	7週間
HUEP の使い方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業時間の内外</li> <li>・ 同一の番組 (「やさしい英語会話」の最新エピソード) + 自由選択 (6エピソード)</li> <li>・ Moodle 上で聴取</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業時間外のみ</li> <li>・ 自由選択 (HUEP で提供されている3種類の番組から180分以上を聴取)</li> <li>・ 聴取媒体は自由</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 確認テスト</li> <li>・ リスニングログの提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リスニングログの提出</li> </ul>

表3 今回の実践と榎田(2010)との比較

### 3 実践の結果

#### 3.1 確認テストの結果

毎回の授業開始時に行った確認テストの結果は以下の通りである。

0～1点未満	18
1～2点未満	39
2～3点未満	22
3～4点未満	13
4～5点未満	3
5点満点	0

表4 学生ごとのテスト平均点 (全7回, n=95)

0～2点未満の学生が大半を占めていることから、テストにより教員の意図した内容が十分に学習されているとは言いがたいだろう。もっとも後述のアンケート調査からわかるように、これは学生の学習態度のみに原因があるわけではなく、教室での指導において、会話のポイントが適切に理解されなかったことを示している。

#### 3.2 アンケート結果

アンケートでは89名の回答を得た。以下、DAPの所有状況、HUEPの聴取手段、平均聴取回数、このポッドキャストが英語学習に役立ったかどうか、今後ポッドキャストで英語を勉強したいかどうか、以上の項目について、榎田(2010)のデータと比較しながら結果を検討する。なお、先にも述べたように、学年、人数、英語力など、両実践における対象学生の背景は大きく異なっているため、単純な比較から早急に結論を下すことは厳に避けるべきであるが、同じHUEPを用いた実践として考察の参考とするために比較を行っていることを付言しておく。

また、HUEPを用いた英語学習に関する自由記述のコメントについても結果を見ていく。

##### (1) DAPの所有状況

	今回の結果	榎田(2010)
iPod	48 (53.9%)	21 (42%)
Walkman	15 (16.9%)	4 (9.5%)
その他	7 (7.9%)	4 (9.5%)
所有せず	19 (21.3%)	21 (42%)

表5 DAPの所有状況

榎田(2008)でも広島県内の大学生約300名を対象に同様のアンケートを行っているが、当時のiPod所有率は30%、iPod以外のDAPは21%であった。iPodやWalkmanのようなDAPの所有率が着実に増加しており、現在では8割近い学生がDAPを所有している。一方でなおも2割の学生がDAPを所有せず、モバイル環境での学習にアクセスできない現状も無視できない。

## (2) HUEP の聴取手段

	今回の結果	榎田 (2010)
ブラウザ	80	27
iTunes	6	12
iPod	3	7
iPod 以外の DAP	1	2
メディアプレーヤ (PC)	0	2

表6 HUEP の聴取手段 (複数回答可)

本実践では原則として Moodle を用いて聴取するよう指示したので、この結果自体は妥当であり、特に意味を持たないだろう。ただ、その中でも iTunes や iPod の利用者がいたことは特筆すべきかも知れない。iTunes や iPod の利便性を活用し、モバイル環境で学習したいというニーズは、少数だが存在すると言える。

## (3) 平均聴取回数

今回の実践では、1つのエピソードを聴取した回数について、新たに質問した。

0回	8
1回	59
2回	18
3回	3
4回	1

表7 1週間あたりの平均的聴取回数

2回以上繰り返し聴いた意欲的な学生もいる反面、半数以上の学生が1回しか聴取しておらず、1割近い学生は全く聴いていないという結果に終わった。場所を問わず繰り返し聴ける点がポッドキャストの利点であり、教室での指導においてもその点は何度か指摘したにもかかわらず、今回の学生はその利点を十分に生かしていないことがわかる。学生の生の声については、後の自由記述で扱うこととする。

## (4) ポッドキャストが英語学習に役立ったかどうか

	今回の結果	榎田 (2010)
強くそう思う	7 (7.9%)	4 (8%)
ある程度そう思う	73 (82%)	44 (89%)
あまりそう思わない	9 (10.1%)	2 (4%)
全くそう思わない	0 (0%)	0 (0%)

表8 ポッドキャストが英語学習に役立ったかどうか

榎田 (2010) と本実践の相違はほとんど見られないが、強いてあげるならば「ある程度そう思う」が微減し、「あまりそう思わない」が増加している。また「強くそう思う」「あまりそう思わない」は「ある程度そう思う」に比べて突出した意見であり、肯定的な学生と否定的な学生の割合を知る手がかりとなり得るが、榎田 (2010) では「強くそう思う」学生の方が「あまりそう思わない」学生よりも多かったのに対し、今回の実践では逆転している。

#### (5) 今後ポッドキャストで英語を勉強したいかどうか

	今回の結果	榎田 (2010)
強くそう思う	3 (3.4%)	2 (4%)
ある程度そう思う	64 (71.9%)	37 (74%)
あまりそう思わない	22 (24.7%)	11 (22%)
全くそう思わない	0 (0%)	0 (0%)

表9 今後ポッドキャストで英語を勉強したいかどうか

(4) と比較して「強くそう思う」「ある程度そう思う」が減少し、「あまりそう思わない」が増加する傾向は両実践で共通している。授業中は肯定的な態度で臨んでいても、単位取得とは無関係に自主的にポッドキャストを用いて学習を継続することについては、消極的な姿勢に転じる学生がいることがわかる。

#### (6) Hiroshima University's English Podcast へのコメント

ここでは自由記述の回答を、英語学習でのポッドキャスト利用に関するもの、教材の内容と学習成果に関するもの、番組の構成やレベルに関するものの3点に分けて報告する。

##### ・英語学習でのポッドキャスト利用

<p>(肯定的意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 手軽にリスニングを行える</li> <li>● 毎回更新されて面白かった</li> <li>● CD よりもやる気が出る</li> <li>● iPod に入れるとどこでも聞ける</li> <li>● 英語を聞く機会がこれくらいしかない</li> <li>● 授業で扱わなかったら存在も知ることはなかった</li> <li>● 他の英語関係のポッドキャストにも興味を持った</li> <li>● 毎週聞く習慣ができた</li> <li>● 授業以外の週も英語を聞くようになった</li> <li>● 週1程度なら継続しやすい</li> </ul>	<p>(否定的意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● インターネットにつながなければならないので面倒</li> <li>● パソコンに疎いので iTunes とかよくわからない</li> <li>● 今いち iPod での聞き方がわからなかった</li> <li>● あまりパソコンを使わない</li> <li>● iPod でたまに流れてくるので消すのも手間</li> <li>● デジタルプレーヤを持っている人とそうでない人との利用度の違いが生まれる</li> <li>● もし活用するなら売ってある教材を使う。</li> <li>● 聞く時間がそこまで取れない</li> </ul>
---	---

表10 自由記述 (英語学習でのポッドキャスト利用に関するもの)

このように肯定的意見では、学習の手軽さ、他のメディアと比較しての簡便さ、ペースメイキングによる学習の習慣づけの効果など、ポッドキャストの長所が指摘されている。また、本実践を経て初めてポッドキャストの存在を知ったという回答もあることから、ポッドキャストの認知度はまだまだ低い様子がうかがえる。一方、否定的な意見としては、パソコンを利用しなければ

いけないことの煩瑣さや、パソコンやインターネットへの習熟度・利用度の個人差、さらにはそれを原因とするいわゆるデジタル・デバイドの問題などが述べられている。ICTを利用した外国語学習は、その操作に習熟した学習者にとっては学習への敷居を下げ、学習効率を上げ得るが、そうでない学習者にとっては逆効果になりうるということがわかる。

・教材の内容と学習成果

<p>(肯定的意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 会話特有のさまざまな表現を知ることができた</li> <li>● 解説と例文がわかりやすかった</li> <li>● リスニングだけでなく英語自体の勉強になった</li> <li>● 内容が結構面白く、身近で親しみやすかった</li> <li>● 外国人がどのように思っているかを考えることができた</li> <li>● 普段当たり前と思っていることについて議論しているのが面白い</li> <li>● リスニング能力向上に役立った</li> <li>● TOEICでリスニングの成績が良くなっていた</li> <li>● TOEIC前に耳慣らしで使おうと思う</li> </ul>	<p>(否定的意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 内容が自分には合わなかった</li> <li>● 英語学習にならなかった</li> <li>● TOEICのテスト前以外は聞かないと思う</li> <li>● 若者の興味を引く内容を多くすればよい</li> </ul>
---	---

表11 自由記述（教材の内容と学習成果に関するもの）

先にも述べたとおり、「やさしい英語会話」の内容はTOEIC対策の内容と必ずしも合致するものではないが、この点に関しては肯定的意見が否定的意見を予想外に上回った。会話表現の多様さ、内容の面白さ、異文化への興味喚起のみならず、内容を楽しみながらリスニングの絶対量を増やすことで、TOEICスコアにも効果がある点が指摘されている。また否定的な意見の中でも、TOEICとの相違を批判的に指摘する声はなく、むしろTOEICテスト直前の「耳慣らし」的な効果は認めていることがわかる。

・番組の構成やレベル

<p>(肯定的意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 最初がスロースピードなので聞きやすかった</li> <li>● わかりやすくてよかった</li> <li>● ちょっと難しいところがよい</li> <li>● 日本人の女性の声が好きだった</li> </ul>	<p>(否定的意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 15分は少し長い</li> <li>● 1本1本がとても長くてやる気が出ない。5分くらいならやってもいい</li> <li>● <u>授業中の(確認)テストが難しかった。番組を聞いた上でテストに臨んでもなかなか点が取れなかった(下線筆者)</u></li> <li>● 英語が得意な人には物足りなかったと思う</li> <li>● <u>何が重要なポイントで学んでほしいことなのかよくわからなかった(下線筆者)</u></li> <li>● <u>解説している表現はスクリプトの文中で下線を引くなどわかりやすくしてほしい(下線筆者)</u></li> <li>● 訳もあるといい</li> <li>● スロースピードは不要。ゆっくりすぎて気持ち悪い</li> <li>● 会話に入るまでの前置きが長い</li> </ul>
---	---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 司会者の個人的な会話が本文の解説と混ざり合ってわからなくなる時があった</li> <li>● 更新日は（授業日の）月曜日にしてほしかった</li> <li>● 巻き戻し早送りのボタンがあると嬉しかった</li> <li>● もっと音質がよければ良い</li> </ul>
--	--

表12 自由記述（番組の構成やレベルに関するもの）

番組の構成やレベルに関しては多くの課題が指摘された。肯定的意見を見ても、同一の番組のレベルが多様に受け取られていることがわかる。否定的意見としては、いわゆる注意持続時間（attention span）の問題<sup>3)</sup>、番組フォーマットの問題点、日本語訳のような学習補助となるコンテンツの要望、音質やウェブ上の音声プレーヤといった技術上の問題などが指摘されている。その中で、下線部の意見は、3.1で指摘された確認テストの平均点の低さを説明するものとなっており、本実践の最大の問題点であったといえる。番組を聴いていても確認テストの成果につながらないことが、ひょっとしたら（3）の聴取回数の低さにつながり、負の影響をもたらしたのかもしれない。

#### 4 まとめと今後の課題

本実践では、学期を通じてポッドキャストによる習慣的・継続的学習を行った。これにより、多くの学生にHUEPをはじめとする英語学習用ポッドキャストの存在を認知させ、ポッドキャストの利点と学習効果をまずは体験させることができたと言える。一方で、確認テストの結果にも見られているように、授業での指導を通じて教員の意図したポイントが十分に学習されたとは言いがたい。また、HUEPの「やさしい英語会話」の会話の多くは留学生が執筆・出演しており、いわゆる authentic な英語が用いられているため、この単一のコンテンツを用いて、多様な英語力の学生を対象に体系的な授業シラバスを組むことが困難であった。

今後の課題としては、以下の点が挙げられる。教材開発にかかる人的、時間的な制約もあり、すべてを実現することは難しいが、少しずつ試行できたらと考えている。

・ポッドキャストの教材開発・配信・授業実践は当面継続する。英語学習への姿勢が消極的な学生には、ポッドキャストをもってしても自発的学習の促進は困難なのかもしれないが、HUEPの存在をそれまで知らず、ポッドキャストのような手軽な学習手段を求めている学生は少数ながら存在するので、後者の学生の認知度を上げるための方策を考えたい。

・DAPを持たない学生にもリーチするため、特に学生間で所有率の高い携帯電話での配信システムを構築する。現在はiPhoneをはじめとするスマートフォンや、携帯各社のパケット定額サービスも普及しつつあり、このような環境下ではクラウドからコンテンツを直接ダウンロードすることが可能である。このようなパソコンを介さずに気軽にポッドキャストを利用できるようになれば、アンケート調査に見られたパソコンを使うことへの抵抗感の問題も、徐々に解決されるのかもしれない。

・ポッドキャストを用いた体系的な授業シラバスを作成する。現在の authentic な会話に加え、学習すべきポイントを整理し、学習者のレベルと注意持続時間に応じたコンテンツを作り分ける。また、ポッドキャストの音声ファイルだけでなく、授業で配布するワークシートも同時に作成する。

・ポッドキャストを利用して、学習者同士をつなぐ学習活動の可能性を考える。ポッドキャストの制作のノウハウを授業活動に応用し、受容技能の訓練だけではなく、協同学習によるポッドキャスト等のデジタルコンテンツを作成し、可能なものは現在の配信システムに載せて一般公開する。

## 注

- 1) Hiroshima University's English Podcast へのアクセス方法は、おもに (1) 専用ウェブページへのアクセスと、(2) iTunes によるアクセスの2通りがある。(1) の URL は <http://pod.flare.hiroshima-u.ac.jp/>。あるいは「広島大学 ポッドキャスト」で Web 検索も可能。(2) は「広島大学」あるいは「Hiroshima University」で検索するとアクセス可能。
- 2) Salmon and Nie (2008) は、ポッドキャストの教育活用プロジェクト IMPALA の受講者を対象に行ったアンケート調査で、DAP に教材コンテンツをコピーして持ち運んだ経験のある者がほとんどいなかったと述べている。また、音楽とは異なり、教材を聞く行為は集中が必要であるため、モバイル環境における「流し聞き」が学習者にとって困難な点を指摘している。
- 3) Williams (2007) では、教育用ポッドキャスト作成に着手する際は、学習者の注意持続時間に配慮し、まず15分以内の短いものから始めるべきとしている。

## 参考文献

- Lauer, J. (2008). High-quality Podcasts for Learning English. 『広島外国語教育研究』 11, 95-106.
- Lauer, J. (2009). Podcast Power: Hiroshima University's New English Listening Materials. 『広島外国語教育研究』 12, 85-94.
- Lauer, J., Enokida, K. (2010). A Longitudinal Study: The Effectiveness of Podcasts for Learning English. 『広島外国語教育研究』 13, 75-92.
- Salmon, Gilly and Nie, Ming (2008). Doubling the Life of iPods. Salmon, Gilly and Edirisingha, Palitha (eds.), *Podcasting for Learning in Universities*, Open University Press, 1-11.
- Williams, B. (2007). *Educator's Podcast Guide*. Eugene, Oregon: International Society for Technology in Education.
- 池田真生子 (2008). 「Podcasting の利用法」竹内理 (編著), 『CALL 授業の展開—その可能性を拡げるために』 (163). 松柏社.
- 榎田一路 (2008). 「ポッドキャストを英語学習に利用する上での予備調査とその考察—購読型教材配信によるモバイル英語学習システムの構築に向けて—」『広島外国語教育研究』 11, 69-81.
- 榎田一路 (2009). 「英語学習用ポッドキャスト “Hiroshima University's English Podcast” —オリジナル番組の制作と配信システムの構築—」『広島外国語教育研究』 12, 71-81.
- 榎田一路 (2010). 「オリジナル英語学習用ポッドキャストの授業での活用」『広島外国語教育研究』, 13, 65-74.
- 尾関修治 (2009). 「大学でのメディア活用法」『英語教育2009年10月増刊号』(12-13). 大修館書店.

## 資料1 授業で配布したワークシートの例

### Hiroshima University's English Podcast やさしい英語会話 (66) Going to a Concert (2010年6月29日配信)

会話を聞きながら、次のポイントについて考えてみましょう (下のスクリプトはなるべく見ないでね)。

1. 関ジャニ∞のコンサートにはどのぐらいの人数が集まると言っていますか。
2. うちわを作るというアイデアに対し、もう一人の女性はどのように言っていますか。
3. この会話では、うちわの他に、どのようなアイデアが出ていますか。

W1: Huaaa! I can't wait to see the Kanjani8 concert next week!

W2: Me either! But Osaka Dome is so big. More than \_\_\_\_\_ people are gonna be at that concert. I'm sure Kanjani8 won't be able to notice us!

W1: Hmm... ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) to make the Kanjani8 guys notice us...

W2: It's gonna be hard. What about we make some uchiwas? We can write our names along with our favorite Kanjani8 member's name on it.

W1: Hmm... I think that's not enough. Uchiwas are so small, and like you said, the dome is so big. Making simple uchiwas like that won't work.

W2: Hmmm... do you have any other idea?

W1: What about we do some \_\_\_\_\_? You know that Kanjani8 have a skit called Eito Ranger, right? Where they use uniforms like a super hero and act like they want to save the world?

W2: Oh, I love that skit! That's a real good idea. (つづく)

## 資料2 確認テストの例

“Going to a Concert” より

(音声およびスクリプトは <<http://pod.flare.hiroshima-u.ac.jp/cms/index.php?itemid=164>>)

1. In America, many people [ buy / make their own / rent ] costumes for cosplay.
2. One of the girls [w \_\_\_\_\_ ] what they can do to make the Kanjani8 guys notice them.
3. One of the girls does not think that making simple uchiwas will [w \_\_\_\_\_ ].
4. In class, Joe likes to [a \_\_\_\_\_ ] the students' attention by wearing strange ties.
5. “You can [s \_\_\_\_\_ ] that [a \_\_\_\_\_ ].” means “I agree.”

## ABSTRACT

### Weekly Use of Original English-Learning Podcasts in Classrooms

Kazumichi ENOKIDA

The Institute for Foreign Language Research and Education  
Hiroshima University

In this paper, a classroom practice using Hiroshima University's English Podcast and the survey results are reported. The research was conducted in two classes of Enokida's "Challenging TOEIC", TOEIC-oriented courses, in 2010. The group consisted of 95 second-year students from the faculties of Engineering, Science, and Applied Biological Science, Hiroshima University. CALL rooms were used as classrooms, and Moodle as a learning management system. Ten to 20 minutes in every lesson were dedicated to listening activities, using a part of the latest episodes from "Easy English Conversation". Activities such as comprehension check, dictation, role playing, and summarizing were given based on paper worksheets, which were later digitized into pdf format and also "podcasted" on iTunes. Outside the classroom, students were instructed to listen to the whole episode on Moodle to prepare for quizzes on it in the following lesson. They were also required to listen outside the classroom to six episodes they chose from Hiroshima University's English Podcast, and to submit their "listening logs" on Moodle. A questionnaire survey on English learning using podcasts was conducted at the end of the term. The results of this classroom practice are reported, in comparison with the ones found in the previous research conducted in Enokida (2009), and emphasis is also put on the students' feedback in the questionnaire.

The following conclusions were reached: 1) By learning with originally-developed podcasts in classrooms during the course period, many students showed positive attitudes toward learning English with podcasts. 2) Many of them realized the benefits of podcasts and even felt improvement in their listening abilities. 3) Yet, certain points focused on by the teacher were not sufficiently learned by students. 4) It was difficult to give the same learning materials to students of various levels.

From this classroom practice, the following questions arise: 1) How can podcasts be systematically incorporated into a course syllabus? 2) Would it be effective to develop a variety of contents according to learners' levels? 3) Would it be beneficial to students if some of the episodes were written and recorded by themselves?